

残そう、自然の宝石箱・のりくら



くらがね通信

No.55 (早春号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 26 年 2 月 1 日発行

第14回総会・環境講演会を開催します

日時：2月22日(土) 13時20分～15時30分 場所：高山市民文化会館

・第Ⅰ部 環境講演会 13時20分開演 (一般の方も聴講できます)

『増え続ける野生動物被害の現状と対策 —特に岐阜県のシカ問題について—』

講師：角田 裕志 氏(つのだ ひろし) 岐阜大学准教授／客員准教授

・第Ⅱ部 第14回総会 15時～

第3回 乗鞍フォーラム ～ともに考える明日～

■事前座談会

第1回目 10月6日(乗鞍・畳平)

第2回目 11月19日

(奥飛騨総合文化センター)

第3回目 11月26日(高山市役所)

■乗鞍フォーラム

12月14日(高山市役所市民ホール)



(写真：高山市提供)

乗鞍でのEV実験 直井 清正

平成24年乗鞍自動車利用適正化協議会のワーキンググループが発足、当会に声がかかり私が出席することになりました。行政、有識者、民間、産業、そして事務局が県と高山市という顔ぶれです。今までこの会から当会に参加の声がかかったことは無く、一歩前進かとも思いました。しかし始めに電気自動車(以後EVと表記)乗り入れ実験ありき、と言う会議にマイカー規制はずしに利用されるだけの懸念もありました。それでも当会の意見を公に言うことが出来る機会が出来ただけでも良いと思い、参加しました。会議では観光業界からマイカー規制撤廃や除雪を早め、ゴールデンウィークに乗鞍スカイライン開通の要望が出ました、それに対

し委員長からマイカー規制の始まった時点で「観光協会は除雪費用を負担する」とまで言っていたのに何もしていないではないか、ときつい言葉が出ました。私にとっては初めて知る事例でした。

当会としてはEVであっても発電時に原発の例もあり、深刻な環境破壊や大気汚染があること、高山植物の盗掘など防止できないことなどから反対であると発言しました。

その後、都合がつかず宝田さん、松崎さんと二回にわたり出席していただきました。その後の会合でも産業界からの発言は少なく、当会や環境省などの規制存続の意見が多かったと思います。平成25年度に入り「意見が広範囲に分かれまとめ難い」とのことでワーキンググループを「EV実験チーム」と「目標入山者数設定チーム」に分けることになったと通知がありました。当会の役員会でEVを入れるだけが目的の「EV実験チーム」なら辞退すべきとの意見もありました。当初「EV部会」と「地域振興部会」とする通知であったためそれなら意義の無い「EV部会」から「地域振興部会」へ変更してもらうように話すことにして出席しました。しかし人選はいろいろ考慮しているので変更は無理との返答でした。「EV実験」の意義が無いとの主張は繰り返しました。

24年度の報告の中で「高山植物の盗掘」が一例ありました。私たちの危惧していたことがおきました。昨年、私が立山のバスのようにテレビで乗鞍岳の貴重な自然を紹介し、観光客に理解してもらうよう主張したこともあり、来年度に向け実現したいとの話も出てきました。平成25年12月14日の市役所地下ホールでの乗鞍フォーラムでそれらの話が出ました。

最後に市長が「乗鞍岳を世界遺産に」と発言、私は臍曲がりですから何を今更、と思いました。「EV実験チーム」で訴えてきたことは「本当に大切なのは最も良い状態で乗鞍岳の自然を残す」と言うことです。そのためには山頂の施設の関係者の車こそ「EV」にし、観光バスなどの排気ガスも規制すべきです、そうでないと濃飛バスなど低公害車を導入している正直者は不公平になります。大気汚染も改善されたと言うがスカイライン脇のサルオガセなどは回復していません。野麦の登山道ではサルオガセがたくさん木にぶら下がっています。関係者自ら乗鞍岳を大切にしていることを示し、その上でEVなどの利用を検討する、と言うのならまだ話は分かります。それをしないでEVならマイカー規制を撤廃しても良い、というのは単に金儲けになれば何しても良いとの魂胆が丸見えです。市長の発言もなにやらそれに近い物を感じました。まあ、考えようによっては「世界自然遺産登録」目指して乗鞍岳の自然環境の保全が推進されれば当会の目的にも適うことであり、喜ぶべきことかもしれません。

事前座談会に参加して

松崎 茂

第3回乗鞍フォーラムは、例年とは違うスタイルで企画されました。市内三ヶ所で座談会を開き、市民による乗鞍に関しての意見を広く交換し、そこで出た意見を12月のフォーラム本番で発表するという新たな取り組みがなされました。私は10月6日に開かれた丹生川地域での座談会に参加したので、その概要をお伝えします。

朴の木平からシャトルバスに乗り乗鞍岳の畳平駐車場に移動し、意見交換に先立ち上平尚氏に乗鞍岳の歴史などを手短かに説明していただきました。その後屋内に移り、先ず事務局から各種データの説明を受け、続いて座談会に入りました。座談会はA・B二つグループに分かれ行われました。座談会のテーマは「高山市民にとっての理想の乗鞍とは」。各自自己紹介の後、フリートークの形で進められました。主な意見を箇条書きにすると

- 乗鞍に関係する観光業者は、マイカー規制前の「良い思い」からの脱却ができていない。

後戻りはできないのだから、意識改革が必要

- 乗鞍の魅力のPR 不足が大きい。多面的に乗鞍の魅力を発信していかねば
- 最近では登山を目指す客が多く、マナーが随分向上している
- 現在の客数であれば乗鞍の施設のキャパシティーは十分足りている
- 登山の山としてのPR が足りない、あちこちにある乗鞍への登山道の整備を積極的に行うべきだ
- 高山市の子供も達は乗鞍を知らない、もっと子供達に乗鞍へ連れて行くべきだ
- 畳平に着いてからさあどうするか？選択肢が少なすぎる。もっとバリエーションを増やす努力が必要
- 最近では自転車が増加し安全面で配慮が必要だ
- マイカー規制後は「スカイラインの乗鞍」から、「歩くための乗鞍」に変化しつつある
- 立山を参考に、シャトルバス車内の乗鞍の映像をもっと充実すべきだ
- 乗鞍にはじめて来たが、率直に是だというものが感じられない、海外から乗鞍に関する問い合わせを受けるが、世界遺産レベルにしないと、現状ではアピールするものが少ない。
- 便利さに慣れ切っている人々に、乗鞍では逆に不便さとか敷居の高さをウリにした方が良いのでは等々

「高山市民にとっての理想の乗鞍とは」をテーマに座談会を行ったのですが、テーマが大きく漠然とし過ぎていた気がします。

様々な意見が交わされましたが、勿論決論めいたものがまとまるはずありませんでした。全体的には「地域振興と乗鞍（乗鞍でいかに儲けるか）」が大きな底流であったという気がしました。他の地域で行われた座談会も、似たり寄ったりの内容であった事は、フォーラム本番の報告からも伺えました。



(写真：松崎茂)

※公募によりペルー領事館の方3名を含む15名の方が参加されました

乗鞍フォーラムに参加して

飯田 洋

平成25年12月14日高山市役所市民ホールにおいて乗鞍フォーラムが行われました。今年で3回目のフォーラムであり、自然保護団体である当会の代表として私も登壇させていただきました。

乗鞍フォーラムは例年乗鞍に関わる各代表が意見を発表しパネルディスカッションを行うという方式を採ってきておりましたが、今年は、事前に10月から各地域を周って3回の座談会を行い、参加者からいろいろな意見を汲み取り、最終回の本フォーラムではパネルディスカッションは行わないと聞いて参加しました。しかし、例年どおりの地元高校生の発表と電気自動車による社会実験の報告を経て短時間のパネルディスカッションを行うという形のフォーラムになってしまいました。

住民参加、市民参加を充実させることは至難の業であり、特に行政に関わる重要問題について合意形成を図っていくためには、意見交換会、協議会、ワークショップなどいろいろな方法があります。概して行政機関が主催する場合は、発表者や登壇者だけの一方的な意見だけを市民が聴かされることが多く、会場の聴取者も含めて双方向での意見交換を実現することは難しいものと思われま。一応、今回のフォーラムは座談会方式、という新たな議論の場を提供しようとした点は評価できますが、最終回のフォーラムではやはりいつもどおりのフォーラムから完全には脱却できなかったこ

とが残念です。

さて、乗鞍フォーラムの目的は主催者が乗鞍自動車利用適正化協議会であることから、マイカー規制をいつまで続けるのか、観光関連業界の強い要望もあって規制を緩和すべきか否かということを検討をするうえで、市民の意思も反映させたものとしたいというところに狙いがあります。

そこで、この問題について私が発表とした意見を再度簡単に整理し意見を述べてみたいと思います。

まず、もっとも懸念されている、マイカー規制後、乗鞍の入山者すなわち観光客は減少しているという点ですが、たしかにデータ上は入山者は落ち込んでいます。しかし、入山者の減少をくい止め入山者を回復させるため、マイカー規制を直ちに撤廃することには反対です。

マイカー規制の緩和せよという立場の方々からは、高山植物などの生育環境が回復し入山者のマナーも良くなってきているからという意見もありますが、畳平周辺では木道・登山道の整備で植生は回復してきておりますが、外来生物などは増加傾向にあります。ライチョウも良く見かけるようになり数も増加しているという意見も聞きますが、必ずしも十分なデータに裏付けられているものではありませんし、将来の温暖化による生息環境の悪化による影響なども心配です。さらに、近年は乗鞍の高山帯に増えすぎたニホンシカやイノシシ等が登ってきており、大型哺乳類の生息環境に大きな変動が表れて来ていることが指摘されていますが、岐阜県下ではいまだ高山帯でのシカ被害などの研究や対応もなされておられません。

したがって、一時期、特定の場所の自然環境の回復傾向からマイカー規制の緩和を考えるのは早計であり、著名で自然環境が豊かな知床、上高地、尾瀬などはマイカー規制の緩和など話題になっていないことを考え合わせると、マイカー規制が始って日が浅い乗鞍岳について規制緩和を急ぐ必要はないものと考えます。観光客の増加を望むのであれば、登山道の整備や、乗鞍で自然に親しめるための情報整備などに務めるべきではないでしょうか。



乗鞍スカイラインが有料道路として長年利用されてきたことから、乗鞍という自然環境さえも道路環境と同列において観光資源と考えるため、マイカー規制は辞めるべきという考えが広がっているのではないのでしょうか。

我々、飛騨に暮らす市民は、乗鞍という自然生態系からの様々なサービスの享受を受けているわけですが、それはまさに後世に遺すべき貴重な自然であるといった認識が必要だと思われまます。

会員状況

平成 25 年 12 月末会員数 一般 91 名、 団体 4

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に
入会をおすすめください

- ・ 郵便振替 00800-8-129365
- ・ 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第 55 号 (早春号) 平成 26 年 2 月 1 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編集者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237 表紙写真提供 : 小池 潜

